

第2回

言葉の学習

ジアングルにくらすサル
文の組み立て2

学習時間

30分

学習日

月 日

次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。

サルのむれは、ボスザルがひきいているといわれています。ボスザル以外のサルたちにも、それぞれ順位があり、食べ物をとる順番まで決まっているといわれています。

でも、伊沢さんはこの考え方はまちがっているといえます。動物園のサル山など、ある決まったエリアに集団でくらしっていて、人間にエサをもらっている場合には、むれにボスが生まれ、順位ができます。一定の面積の中で、一定の量の食べ物をわけあうなかで競争関係が生まれ、強い者から順位が決まっていくのです。

ところが野生のサルの場合、ボスはいないと伊沢さんはいいます。ほうふな食料があるジアングルでは、むれの中で取り合いをしなくても食べられます。競争する必要がないので、むれに順位はできないわけです。

ほかのサルたちとは、すみわけること競争をいしようにしています。

こう水ではかいされたジアングルに新しい木々がはえはじめます。ここにはリスザルやティザルが、果実やこん虫を食べながら生活しています。

きゆうりょうなど、地面が高くても水の水のえいきょうをあまりうけないところには、木々の高さが五〇メートルにもなる安定したジアングルがソダちます。このジアングルの上層部には、新世界ザルの中では大型のウーリーモンキーやクモザルが、果実を食料に生活しています。

フサオマキザル、ホエザル、ヨザルはどちらの森にもいますが、食べ物や生活時間によってすみわけています。フサオマキザルは果実やこん虫や木の实を食べ、ホエザルは木の葉を食べています。ヨザルはフサオマキザルと同じように果実やこん虫を食べていますが、夜行性で昼間は木のほらの中のでねているので、両者がジアングルでくわすことはありません。

このように、かんきょうや習性によって、アマゾンの野生のサルたちはゆうゆうと生きています。

- *かいしょう今までのことを取りやめること。
- *きゆうりょう少し高くなっているところ。おか。
- *新世界ザル南アメリカにすむサルの仲間。
- *夜行性夜中に活動する性質。
- *習性動物に生まれつきそなわっている生活や行動のしかた。

サルのむれには順位があるってほんとうかな。

今回の問題文

問一 ①、なぜ伊沢さんは「この考え方はまちがっている」と言っているのですか。その理由を説明した次の文の（A）・（B）にあてはまる言葉を文中からそれぞれ書きぬきなさい（Aは六字・Bは四字）。

（A）があるジアングルでは、むれの中で（B）をしなくても食べられるので、野生のサルのむれには順位ができないから。

B

A

問二 ②、野生のサルは、ほかのサルたちとどのようにしてすみわけるのでか。その説明としてあわなものを次の中から一つ選び、記号を○で囲みなさい。

問三 ③、「ここ」が指している内容を文中の言葉を用いてくわしく書きなさい。

問四 果実やこん虫を食べ、夜に活動するサルの名前を文中から書きぬきなさい。

問五 (ア)・(イ)のカタカナを漢字に直しなさい。

- (ア)
- (イ)

関野吉晴『失われた世界をいく グレートジャーニー 人類5万キロの旅④』（小峰書店刊）

答えは「答えと考え方」

こうした取り組みは、もう始まっている。CO₂の「見える化」とよばれるもので、IT企業だけでなく、さまざまな分野に広まり始めている。

省エネするには、電気を消して回ったり、エアコンや冷蔵庫の温度設定を変えたりといった「人の行動」が必要だ。最初のうちにはものめずらしさでいっしょうけんめい消して回っても、なれてくるとだんだんめんどうになったり、あきたりするかもしれない。

そこで、人間がやらなくても、電化製品自身がエコな行動を取る仕組みが必要だとぼくは思っている。

それができるのが、ITだ。ITの特長である人間の頭脳に近い能力を生かすことで、それが可能になる。ITには、人間がその方法を指図してあげれば（つまりソフトウェアでプログラムを組んであげれば）、自分で必要な情報を集めて必要な動作を実行する能力があるのだ。

たとえば、ものがあまり入っていないときは、設定温度を自動的に弱に落とす冷蔵庫。あるいは、人の体温や部屋の温度のむらを感じして、ムダなく運転するエアコン。

このように、CO₂を減らすためにITで何ができるかをさがり、その仕組みを考えて提案することが、ぼくの仕事である。

*省エネII省エネルギー。効率的にエネルギーを使うことにより、余分なエネルギーの消費を減らすこと。

*CO₂II二酸化炭素のこと。地球温暖化の原因とされている。

問三

②、これはどのようなことを表していますか。適切なものを次の中から一つ選び、記号を○で囲みなさい。

- ア 日常生活の中でどれだけのCO₂を出したのか、だれでも一目でわかるようにすること。
- イ インターネットなどを使って、CO₂が地球にもたらすえいきょうを伝えていくこと。
- ウ 電化製品を買いかえるときに、より省エネルギーとなるものを選ぶようにすすめていくこと。
- エ 専門家や研究者でなくても、排出した量がすぐにわかるようなCO₂を開発すること。

問四

③、筆者はどのような仕組みが必要だと考えていますか。文中から二十八字で書きぬきなさい。

くさほよしみ「14歳になったら考える 地球を救う仕事⑥温暖化をくい止めたい」2

(汐文社刊)

答えは「答えいきえ方」